

平成27年度

# 県内大学生が

JOURNAL

of Projects  
from University Students

創る

# 奈良の未来事業 ジャーナル



P2. 「県内大学生が創る奈良の未来事業」  
について

P3～4. 平成27年度 受賞政策提案の  
事業化に向けた検討状況

P5～7. 平成26年度 受賞政策提案の  
事業実施状況

P8. これまでの受賞政策提案一覧

Journal of Projects  
from University Students



# 県内大学生が創る奈良の未来事業

「未来は予測するものではなく、創るもの」という言葉を信じ、専門的な知識や新たな視点を持つ大学生の皆さんと「奈良の未来」を共に創ります。

## 概要

奈良県では、平成24年度から「県内大学生が創る奈良の未来事業」を実施しています。この事業は、多様化・複雑化する県政の様々な課題を解決するため、県内の大学等に在籍する学生の皆さんから政策提案を募集し、応募いただいた政策提案のうち、公開コンペ方式により選ばれた提案を事業化し、学生の皆さんにも参加いただいで事業を実施するものです。

## 平成27年度の政策提案 応募状況について

平成27年度は、18の政策提案がありました。県政の抱える様々な政策課題についての提案で、提案内容は多岐にわたりましたが、書類選考による事前審査の結果、本審査に7グループの参加が決定しました。

## 本審査の概要

平成27年7月24日(金)に、奈良県議会棟本会議場で、本審査を開催しました。本審査は公開コンペ方式で行われ、事前審査を通過した7グループは、8分という短い時間の中で、それぞれプレゼンテーションを行いました。会場には、約100名の傍聴者が集まりましたが、学生の皆さんは堂々と発表を行い、審査委員10名からの質疑応答にも臆することなくしっかりと応答し、入念な準備と真剣な思いが伝わってきました。また、どの政策提案も学生ならではの新たな視点を活かした独創性の高いものばかりで、新規性、実現可能性等を中心に審査が行われました。

審査は難航を極めましたが、激戦の結果、同点で2グループが最優秀賞として、僅差の2グループが優秀賞として選ばれました。最優秀賞、優秀賞を受賞したグループには、それぞれ賞状と副賞が授与されました。審査委



平成27年度 最優秀賞受賞政策提案「女子大生ハンティングサークル(狩りガール)」

員長を務めた荒井正吾奈良県知事からは、「今年の提案は全てが優秀であり、着眼点がそれぞれ非常にすばらしかった。ご提案いただいた政策提案については、今後、政策の参考とし、最優秀賞及び優秀賞については、来年度の予算化に向けて、県の担当部局と協議をさせていただきたい。」と講評がありました。



平成27年度 最優秀賞受賞政策提案「緊急課題！奈良の将来の医療をつくる多職種医療学生の集い」

## 平成27年度 受賞政策提案の事業化に向けた検討状況

平成27年度に最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案について、政策提案した県内大学生と県部局担当者によるプロジェクトチームを設置し、平成28年度の事業化に向けた検討を行いました。

## 緊急課題！ 奈良の将来の医療をつくる 多職種医療学生の集い



本審査での質疑応答

最優秀

検討状況

事業化にあたっては、医療職や介護職など地域が多職種間の連携を強めるため、多職種による合同勉強会の開催や合同実習の実施、取組報告等を行うシンポジウムの開催について、検討しました。合同実習では、多職種の学生が県内外の在宅医療等の現場を訪れる予定です。実習を通して、奈良県の現状の理解や県外の成功事例について学び、ケアプランを作成するなどの実習を行うことで、互いの視点の違いに気づき、成功モデル、課題点を発見する機会となると考えています。さらに、事業の締めくくりとして開催予定のシンポジウムでは、学生、教育者及び現場関係者に向けて事業報告を行うことで、地域での多職種間のゴールとその到達へのプロセスを見出すことをねらいとしています。

### 大学生からの声



八木 藍花  
奈良県立医科大学  
医学部医学科2年

私たちの事業では、医療・介護・福祉など様々な学部が、将来十分に連携して、地域で住民を支える仕組み「地域包括ケアシステム」を担っていきけるよう、それに必要な教育を学生主体で行います。

この事業を考えたまっかけは「2025年問題」にありました。2025年には、急速な高齢化や医療資源不足などにより、病院で完結させる医療では立ち行かなくなる問題を知り、それぞれの地域で医療を行う必要性に気づきました。さらに、学びを深めるにつれ、それらの地域の現場では、介護・福祉を担う多職種も連携し、十分な情報共有や役割分担に基づいた、切れ目のないサービスを提供することが重要だと分かってきました。

そこで、具体的な方法として、勉強会と実習を実施する予定です。企画段階から、多学部の学生が対等に意見を出し合い、取り組んできました。職種にこだわらず試行錯誤した経験やそうして作られた関係は、必ずや将来、奈良の地域を支える力になると信じています。

検討状況

事業化にあたっては、南部地域と狩猟文化の振興や若手狩猟者の確保につながるため、大学生を中心としたハンティングサークルによる狩猟に関する多様な活動について検討しました。まず、狩猟マップの作成や、狩猟イベントを通して熟練ハンターや狩猟に興味のある参加者と交流をすることにより、狩猟文化の習得や継承につながる予定です。また、ジビエ料理のレシピ提案や流通調査を行うことにより、害獣を地域の資源として活用できるよう課題の整理・検討を行います。さらに、狩猟の魅力発信するため、奈良県内で開催されている地域イベントに、提案したジビエ料理の店舗を行ったり、狩猟体験ツアーを企画、開催する予定です。

## 女子大生ハンティングサークル(狩りガール)

最優秀



本審査での質疑応答

### 大学生からの声



竹村 優希  
奈良女子大学大学院  
人間文化研究科博士  
前期課程住環境学  
専攻1年

政策提案のきっかけは、野迫川村を訪れたことでした。野迫川村は、農業を主な産業とする小さな村ですが、獣害による被害が増加している一方で、高齢化により獣害対策の担い手も減少しています。

そのような状況を目の当たりにし、狩猟を切り口とした農山村の振興として、本事業を提案するに至りました。

受賞直後は事業化に対する不安もありましたが、多くの方々のサポートや協力により、事業実施に向けて準備を進めることができました。昨年の11月にはイノシシの解体現場に立ち会わせていただきました。目の前で動いていたイノシシが「シシ肉」にされていく工程には圧倒されましたが、自分が何かの「命」に生かされているのだということをダイレクトに感じた1日でした。事業推進にあたっては、「ジビエ料理の普及」や「地域振興」といった言葉が先走ってしまいがちですが、この事業が「命」のやり取りの上で成立しているということを心に留め、今後もしっかり取り組んでいきたいと思っています。

# 不登校の子どもたちに 大学生ができること ～大学間の垣根を越えて～

優秀賞

検討  
状況

事業化にあたっては、不登校支援的な活動を進めるため、学校とボランティアを希望する大学生のニーズをマッチングさせるマッチングサポート委員会の設置を中心に検討しました。マッチングサポート委員会には、マッチング・コーディネーターや大学生ボランティアをサポートし、学校の支援も行うことのできるスーパーバイザーとして臨床心理士を配置する予定です。また、学校のニーズをデータベース化したものを、大学生ボランティアがWeb上で検索し、登録できる電子申請の仕組みを利用する予定です。さらに研修会やシンポジウム等を開催し、優秀な大学生ボランティアとして育成していきたいと思えます。



本審査での質疑応答

## 大学生からの声



酒井 希恵  
帝塚山大学大学院  
心理学研究科心  
理科学専攻2年

私は、奈良県内の小学校で長年にわたりボランティア活動をしています。ある時、校長先生から学生ボランティアに関する困り事を聞き、それらを解消したいと思ったことが本事業参加への動機でした。それは「ニーズのある専攻の学生と巡り会わない」「来校する学生が見つかってもらえない」「来校するボランティアを希望する大学生側のニーズにズレがある」というものでした。このような困り事を解消し、ボランティアの派遣をこれまでよりも有効でスムーズに行うためには、仲介を行う仕組みが必要であると感じ、本政策を提案しました。学校と学生の橋渡しをし、機能的に学校と学生のニーズをマッチングさせようというのが、本事業の目的です。しかし、一言でマッチングと言っても、様々な意見や先進の取り組みを参考にしながら、奈良県の現状にフィットするマッチングの仕組みを考えることに大変苦労しました。年度初めの本格始動が近づくにあたり、本事業が不登校の予防と減少に貢献できるように尽力したいと考えています。

検討  
状況

事業化にあたっては、将来的な南部地域への移住促進のため、集落者の交流の場や、移住・定住促進に向けた滞在型交流体験の場づくりについて検討しました。まず、十津川村谷瀬にある空き古民家を活用した「宿泊型DIY体験+村くらし体験」からなる宿泊型ワークショップを、2泊3日の日程で年5回実施する予定です。また、もう一つの空き古民家では、住民や来訪者のための休憩、憩いの場「こやすば」を整備し、開放します。さらに、谷瀬の吊り橋を望む展望台までを、ゆっくり歩いて楽しんでもらう「ゆっくり散歩道」の整備も行う予定です。

# かえろうら！十津川 ～空き家のDIY改修& 活用プロジェクト～

優秀賞



本審査での質疑応答

## 大学生からの声



森 里沙  
奈良女子大学大学院  
人間文化研究科博士  
前期課程住環境学  
専攻1年

私たち学生が、地域づくり活動に以前から参加させていたでいる十津川村に、「何か恩返しをしたい！」という思いに至ったことが今回の政策提案の背景です。  
少子高齢化が進行し過疎化が進む十津川村は、ゆくゆくの日本全体の姿であり、抱えている問題は深刻です。今回の政策提案を通じて村の集落環境が改善され、これからの地域づくりに向けて更なる活力がうまれることを目指して、チームメンバーとの話し合いや村の人たちの実際の声から事業実施に向けて準備を進めました。  
事業化の段階では「なぜ・どうして」を繰り返す作業が大変多く、今までの活動に対して立ち返って考えるきっかけにもなり、本事業への参加は私たちが学生にとっても良い機会を与えていただいたと感じております。また、県担当者の方などから意見を聞く機会もあり、自分たちで勉強することも増え、改めてこれからの取り組みに対する見識が深まりました。

## 平成26年度受賞政策提案の事業実施状況

平成26年度に最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案について、大学生の皆さんにも参加していただき、平成27年度に事業として実施しました。

# けんぎょう 健楽農業モデル事業

最優秀賞

政策提案名：楽しく健康！健楽農業で遊休地を有効活用



「女子大モデル」による奈良女子大学の学舎屋上での農作物の栽培

陵町モデルではシルバー世代による現地ほ場を女子大モデルでは大学生による屋上農園を、それぞれ利用した農作物の栽培や販売方法など農業参入の実証を行いました。

### 実施状況

4月に、県・

奈良女子大学・

広陵町・農作物指導農家・事業参加者サークルで構成する「健楽農業実行委員会」を結成

概要 農業の担い手不足等により発生している耕作放棄地の解消に向けて、高齢者や学生などが参画し、健康で楽しく農業に取り組んでもらう

県民参加型の新しい農業である「健楽（けんぎょう）農業」に取り組みました。健楽農業には、「健楽農業広陵フィールド」（広陵町モデル）と「奈良女子大学構内」（女子大モデル）があり、広

し、「広陵町モデル」「女子大モデル」の取り組みを進めました。

「広陵町モデル」では、広陵町内で事業参加者を募集し、農家の指導を受け農作物の高品質な生産を行い、収穫物（サツマイモ、枝豆等）を利用して10月10日に収穫体験イベントを実施しました。また、収穫物の商品化に向けて、パッケージの作成や、レシピの提

案、加工品の試作などを行いました。この後、新たに事業参加者を募集し、平成28年2月現在12人が参加の意志を表明しています。

「女子大モデル」では、奈良女子大学の学舎屋上で、プランターを利用してミニトマト、なす、ピーマン、ひもとうがらし、大和まな、ラディッシュ等の多様な品目を栽培し、飲食店へのレシピ提案を行いました。



「広陵町モデル」による農作物の栽培（収穫体験イベント）



「女子大モデル」におけるプランター栽培

## 大学生からの声



十佐野 美裕  
奈良女子大学大学院  
人間文化研究科博士  
前期課程住環境学  
専攻2年

「提案した政策が実際に実施できるかもしれない。」というのは学生の私たちにとって、とても魅力的な政策提案事業でした。

「楽しく健康！健楽農業」と題した事業を提案し、公開コンペ形式による本審査で賞をいただいたことから事業の準備期間であった平成26年度は、慣れない作業に戸惑いながらも同じ研究室の仲間と協力し、県庁、広陵町役場の方々に助けていただきながら準備を進めることができました。

しかし、平成27年度に入り実際に事業が進み出すと、様々な方が関わる事業の難しさを実感しました。複数の機関、様々な方の合意・協力が必要であった私たちの提案事業では、「参加者全員の目標を同じところに設定する。」ということですら大変だったように思います。

そのような問題を感じられたのも、事業に一貫して関わることが大きかったと思います。もちろん通った意見ばかりではありませんし、少なからず妥協して進めた点もあるかもしれません。結果としてそのような経験も含めて、とても有意義な経験をさせていただいたと思っています。

最後に、モデル事業の成果が今後の耕作放棄地解消につながることを期待しています。

# 無病促菜で元気100%事業

政策提案名：無病促菜 ～野菜パワーで元気100%な奈良県へ！～

優秀賞

## 概要

若い世代に野菜をとることの大切さや奈良県の野菜のおいしさを伝えて、健康的な食事摂取を促すために、奈良県内の高校生を対象とした出張課外授業を実施しました。また、奈良県産の野菜を使用した弁当を、通勤者や観光客の立ち寄る駅ナカの店舗で販売し、奈良県の野菜の魅力を広く伝えました。



「奈良のうまいものプラザ」との協働によるランチBOX「Happy Vege Time」の販売

若い世代に野菜をとることの大切さや奈良県の野菜のおいしさを伝えて、健康的な食事摂取を促すために、奈良県内の高校生を対象とした出張課外授業を実施しました。また、奈良県産の野菜を使用した弁当を、通勤者や観光客の立ち寄る駅ナカの店舗で販売し、奈良県の野菜の魅力を広く伝えました。

## 実施状況

「奈良の野菜の魅力や

生産者の思いを伝える！」ことを目的に、学生が提案したメニューをもとに開発したランチBOX「Happy Vege Time（ハッピーベジタイム）」（駅ナカ弁当）を、JR奈良駅構内にある「奈良のうまいものプラザ」と協働して販売しました。平成27年8月10日～9月7日の平日に、毎日20個限定で販売し、販売期間中、毎日完売しました。奈良県産の野菜をたっぷり使用したサンドイッチは好評で、購入者からは、「本当に野菜たっぷりヘルシーだけど、十分な満腹感も得られておもしろかった！」「『サラダなす』の存在を知らなかったため、味付けのない、生のなすびが入っていて驚いた！」などの声がありました。また、平成28年1月28日、29日には、奈良県立二階堂高校の1年生全5クラスを対象に出張課外授業を実施し、野菜の働きや野菜

の健康への影響とともに、食の選び方の大切さを伝えました。



レシピカード



ランチBOX「Happy Vege Time」



大学生によるランチBOX「Happy Vege Time」のPR

## 大学生からの声



高瀬 美枝  
帝塚山大学  
現代生活学部  
食物栄養学科  
4年生

「帝塚山大学・無病促菜で元気100%事業」は、「野菜を通して奈良を元気になりたい！」という思いから生まれました。県民の野菜摂取量が全国的にみてかなり少ないこと、県民の消費意欲が県内の消費につながっていないことに着目し、健康な生活を送る助けになり、地域が活性化するもの考えた結果、出張授業やお弁当の販売を提案することに決まりました。

優秀賞に選ばれ、事業化に向けた検討が始まってからは、自分たちが目指すものを形にするために打ち合わせや試作を何度も重ねました。課題の一つひとつを解決し、完成形に持っていくことは大変なことでしたが、完成したときの喜びと達成感は、それまで一所懸命に取り組んできたからこそ得られたものでした。また、事業を通じて出会った方々からそれぞれの仕事への熱い思いを聞くことができたこと、自分に与えられた役割を果たすことや課題への向き合い方について考える機会を持てたことは、社会人になる前の良い時間となりました。

# 地域栄養カレッジ事業

政策提案名：奈良栄養クリニック設立計画



大学生によるオリジナルメニューの開発

## 実施状況

平成27年8月、9月に、

最先端の栄養に関する知識を盛り込んだランチ付きの栄養教室を、親子向けとシニア向けにそれぞれ2回開校しました。

第1回「心も身体もすくすく食育（親子向け）」、第2回「コツコツ！骨を元気に（シニア向け）」、第3回「素材を活かして、味覚と噛む力を育む（親子向け）」、第4回「食べて脳のアンチエイジング（シニア向け）」と

題して実施し、第1回は27人（大人16人、子ども11人）、第2回は15人、第3回は23人（大人12人、子ども11人）、第4回は27人の参加がありました。それぞれ、まずはテーマに沿った専門家による講演の後、学生によるオリジナルメニューのランチを試食しました。

また、学生が参加者に調査票に基づき個別問診や健康食事診断等を実施し、さらに、教室で学んだことの感想や

食生活について、交流会形式で意見交換を行いました。交流会で専門的な相談が必要になった場合には、有資格者（管理栄養士等）による栄養相談を行いました。



大学生による参加者への個別食事診断



オリジナルメニューのランチを試食

## 大学生からの声



中野 紀子

奈良女子大学大学院  
人間文化研究科博士  
前期課程食物栄養学  
専攻1年

「奈良栄養クリニック設立計画」は地域の方に健康的な食について楽しく学んでもらい健康増進に寄与することを目的として提案いたしました。平成27年8月、9月に栄養講座と食事提供を4回、交流会を2回行いました。テーマ決定、参加者募集、メニュー開発、当日の大量調理や参加者サポート等、多くの作業を学生主体で行いました。実施にあたり給食経営管理、栄養教育など大学で学んだ知識を活用することができました。また参加者からは「来てよかった。」「有意義だった。」など温かい言葉を数多くいただき、何よりの励みとなりました。同時に、私たち学生にとって、普段接することのない幅広い年齢層の方々と交流できる良い経験となりました。この経験を胸に今後もさらに学び、食を通じた人々の笑顔と健康づくりに貢献していきたいと思っております。

## 概要

県民の健康に対する不安を軽減させ、生活習慣病を減少させることを目的に、地域栄養カレッジを開校し、栄養に関する情報や知識を楽しく、効果的に伝えるとともに、地域の方の交流の場としました。奈良女子大学の構内で、専門家による食に関する最先端の研究成果の講義に加え、学生提案メニューの提供、食事診断の他に

さらには、教室で学んだことの感想や

# これまでの受賞政策提案一覧

平成24年度から始まった「県内大学生が創る奈良の未来事業」は、平成24年度は27提案、平成25年度は13提案、平成26年度は20提案、平成27年度は18提案の応募がありました。

審査の結果、最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案は以下のとおりです。

提案年度	賞	政策提案名	提案者
平成27年度	最優秀賞	緊急課題！奈良の将来の医療をつくる多職種医療学生の集い	奈良県立医科大学医学部医学科6年 峯 昌啓 他8名
		女子大生ハンティングサークル(狩りガール)	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程 住環境学専攻1年 竹村 優希 他6名
	優秀賞	不登校の子どもたちに大学生ができること～大学間の垣根を越えて～	帝塚山大学大学院心理科学研究科心理学専攻2年 酒井 希恵 他9名
		かえろうら！十津川～空き家のDIY改修&活用プロジェクト～	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程 住環境学専攻1年 森 里沙 他9名
平成26年度	最優秀賞	楽しく健康！健楽(けんぎょう)農業で遊休地を有効活用	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程 住環境学専攻1年 土佐野 美裕 他5名
	優秀賞	無病促菜～野菜パワーで元気100%な奈良県へ！～	帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科3回生 高瀬 美桜 他9名
		奈良栄養クリニック設立計画	奈良女子大学生活環境学部・食物栄養学科4年 祝迫 景子 他4名
		萃点を灯す～春日奥山から未来への文化継承の地	奈良女子大学大学院人間文化研究科住環境学専攻2年生 大石 茉由佳 他2名
平成25年度	最優秀賞	科学の旅ーシーズンフリーのワンストップサイエンスツーリズムー	奈良教育大学教育学部・学校教員養成課程・理数生活科学コース4回生 荻 奈津希 他5名
	優秀賞	自然の恵みリスタート事業	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程1年 住環境学専攻 濱川 真衣 他4名
		大学生がつくる幼児のためのスポーツイベント	奈良教育大学教育学部・保健体育専修3回生 赤木 誠五 他2名
平成24年度	最優秀賞	泊まってみ奈良？ー町屋ステイで奈良を知るー	奈良県立大学地域創造学部1年 横田 紘大 他8名
	優秀賞	奈良県産材製の児童用学習机・椅子・教卓の普及	奈良女子大学生活環境学部住環境学科4回生 笹川 祐里 他3名
		Meet20s'絆プロジェクトー20歳の若者の出会いで絆をつくるー	帝塚山大学経営情報学部経営情報学科3年 森崎 直人 他7名



平成27年度 優秀賞受賞政策提案  
「不登校の子どもたちに大学生ができること  
～大学間の垣根を越えて～」



平成27年度 優秀賞受賞政策提案  
「かえろうら！十津川  
～空き家のDIY改修&活用プロジェクト～」